

令和3年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究  
研究実績報告書

1. 研究課題名

高齢者のIT活用とヘルスリテラシーの実態に関する研究  
～ヘルスケア実践研究センターにおけるITを活用した健康教育プログラム開発に向けて～

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	金子 仁子	看護学部 看護学科・教授
研究分担者	芳賀 邦子	看護学部 看護学科・助教
	大山 一志	看護学部 看護学科・助教
	児玉 悠希	看護学部 看護学科・助教
	時田 礼子	看護学部 看護学科・助教
	岸田 るみ	看護学部 看護学科・助教

3. 研究期間

2021年10月1日～2022年3月31日

4. 研究の目的

本研究はヘルスケア実践研究センターで行う、2022年度から実施予定のITを活用した健康教育等の実践研究のための基礎として近隣地域の高齢者のIT活用状況、健康情報の関心事、自覚症状、ヘルスリテラシーの状況等の実態把握を目的とする。

5. 研究報告

本学が所在する若葉区、近隣の四街道市の老人クラブの会員、および高齢者支援の中核的人材である地区内の民生・児童委員を対象に質問紙調査を実施した。ヘルスリテラシーについての尺度はHLS-Q12(Hanne Finbratenら)を用いた。

配布数は3572人で回収数は1147人(回収率32.1%)であった。性別は、男性:576名(50.2%)、女性:563名(49.1%)、未回答:8名(0.7%)であった。居住地域は若葉区:433名(37.8%)、四街道市:703(61.3%)、その他・未回答:11名(1.0%)となった。平均年齢は76.8歳であった。回答者の年齢別は、70歳代550人(48.0%)、80歳代400人(34.9%)、60歳代121人(10.5%)となった。

外出頻度を調べた結果、最も多かったのは「週に3～4回」で343人(29.9%)、次が「週に5回」300人(26.2%)、「週5～6回」299人(26.1%)であったが、「たまに、1度も外出しない」34人(3.

0%)となった。

自覚症状は、腰痛 400 人 (34.9%)、視力低下 365 人 (31.8%)、物忘れ 290 人 (25.0%)となった。また、興味関心がある事項では、体力維持・増進 606 人 (52.8%)、認知症予防 538 人 (46.9%)、認知症について 273 人 (23.5%)となった。

インターネットの利用状況とヘルスリテラシーの状況について、マンローホィットニーのU検定結果も含め表 1 に示すとおりである。「インターネット回線」、「この 1 年にインターネット利用」の両方とも「あり」の方が「なし」に比べ、ヘルスリテラシーの点数が高かった。

表1インターネットの状況とヘルスリテラシーの状況					
	度数	HLS-Q12平均値	標準偏差	95%信頼区間 上限 - 下限	P 値
全データ	1045	27.9	9.8	27.3-28.5	
インターネット回線有無					
あり	732	29.3	9.2	28.6-30.0	<.001*
なし	277	24.5	10.4	23.2-25.7	
過去1年間のインターネット利用					
あり	630	29.8	9.1	28.6-30.0	<.001**
なし	343	24.8	9.9	23.8-25.9	

さらに属性の違いによるヘルスリテラシーの状況などについて分析を継続して実施していく予定である。

## 6. 成果の公表

ヘルスケア実践研究センターオープン記念講演会において、結果の一部を公表した。また、ヘルスケア実践研究センターの新聞「こもれび通信」にも結果の概略を掲載し、地区内住民に配布予定である。

今後さらに詳細な分析を行い、看護系学会で発表および、学会誌に掲載を予定している。